

# 学生による学生支援(1)

学生スタッフによる主体的な学びの体現

京都産業大学 学長室 (グローバル化推進室)

京都産業大学 学長室 (教育支援研究開発担当)

千葉 美保子  
テューバー 絵梨子  
辻村 誠矢  
松井 きょう子

対話を通じた学びの支援として、前回(本誌No.372)は雄飛館ラーニング commons の常駐職員による学習支援を紹介したが、京都産業大学(以下、本学)では、教職協働による学習支援だけでなく、学生による学生への学習支援が活発に行われている。今号より三回に分けて学生スタッフによる支援活動について報告する。

## 京都産業大学における学生支援

「対話」を通じた学び支援をキーワードとしている本学の教育施策の特徴は、教職協働による学習支援の他、学生による支援が充実している点である。現在、学生支援・教育支援を目的として、継続的に活動を実施している学生団体は一九団体にのぼる(図1)。これらの団体は、学生にとって大学での学びに必要な活動を、学生自身が主体的にアイデアを提案し、教職員との「対話」を通じて実施している。このような団体の活動する学生を

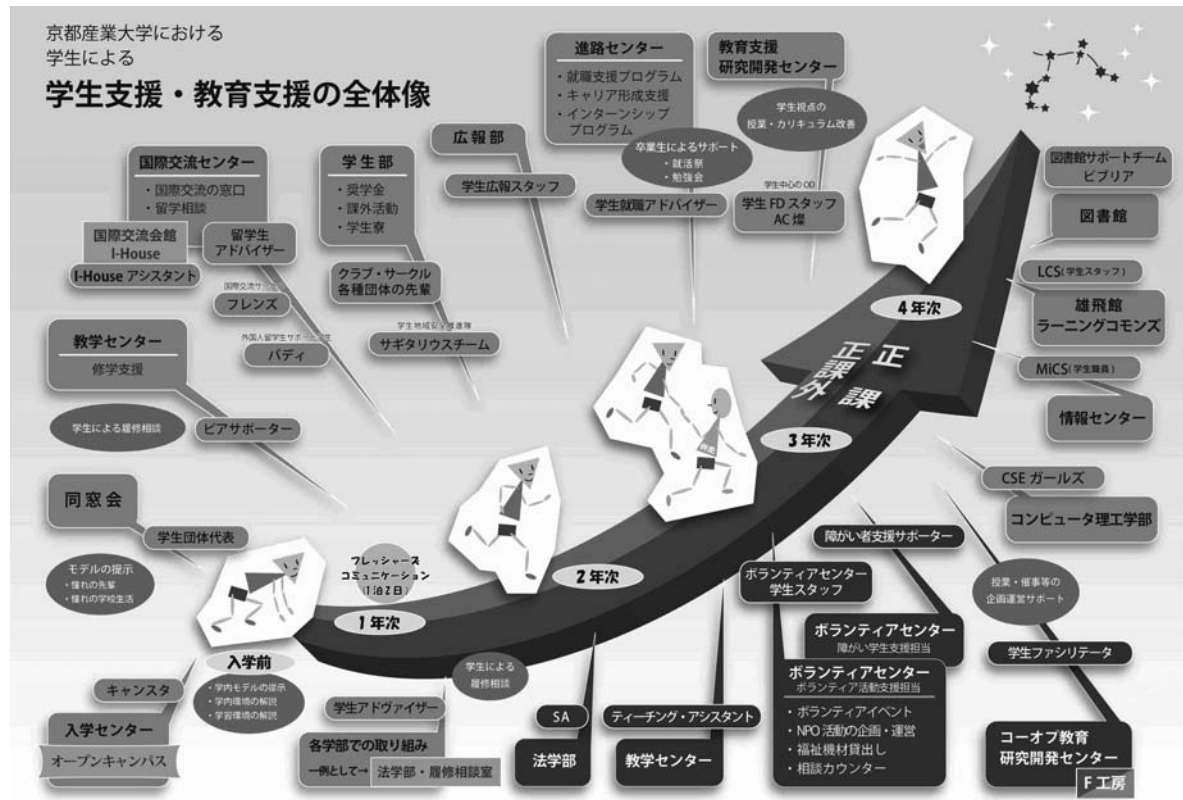


図1 京都産業大学における学生による学生支援・教育支援の全体像

間の制約を乗り越えて議論に参加することができるというところであろう。また、LCSはラーニング commons の利用促進のためにさまざまなイベントをボランティアベースで企画し、学内の教職員と対話を重ねることによって理解と協力を得て、ラーニング commons の活性化を進めている。LCS によるイベント企画は一〇件にのぼる(表1)。先述のように、これらのイベントはすべて LCS が自主的に企画・運営されたものである。LCS の企画するイベントは、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、ファシリテーションなど、社会でも活かすことのできるスキルの習得、経験値の蓄積が期待できる点が特徴的である。二〇一四年度に二回実施された「ICTセミナー」で理工系学部所属する LCS 二名が自主的に企画を進めたもので、第一回目はラーニング commons で利用可能な ICT 機器の活用方法について、第二回目はプレゼンテーション・ツールの活用方

本稿では、本学における学生による支援活動の新たな試みである、雄飛館ラーニング commons 学生スタッフ(以下、LCS)の活動を報告する。

## 雄飛館ラーニング commons 学生スタッフ(LCS)

法のワークショップを、企画者自身が講師となり実施した。このセミナーへは学生のほか、教職員も参加し、プレゼンテーションの発表を通じて教職員・職員・学生が相互に学び合う機会を LCS 自身で作ら上げた。また、「過去から未来へ『自分らしさ』を考える」というタイトルで実施された、本学の PBL 型科目「O/OCF/PBL2」において共同開発されたツールを使用したグループワークイベントでは、LCS はファシリテーターとして自らも事前研修を重ねて臨んだ。その他にも、他大学学生団体と協働で実施したグループワーク「宇宙箱舟ワークショップ」など、スタッフ同士で対話を重ね、また、教職員への対話を通して理解を得ることで、実現へ向けて準備を進めたものである(図2)。

「対話」を通じた協働力

LCS が企画・実施するイベントは、少人数のワークショップから一〇〇名近い大規模セミナーまで、多岐にわたる。その多様な企画を円滑に進めていくためには、彼ら自身の主体性が不可欠である。主体性を高め、さまざまなアイデアを形にする手段が LCS スタッフ間の「対話」である。そして、「対話」を通じて共に学びを作り上げる土壌づくりも欠くことのできない要素である。ラーニング commons 内の掲示物やホームページ上で配信されている紹介動画等も、彼らが自主的に作成したものであり、ラーニング commons の利用傾向やニーズに応じ、掲示内容についても日々改善が行われている。彼らの活動、そして活動を通じた学びに職

表1 学生スタッフ企画イベント一覧

	日時	イベント名
1	4月30日	第1回ICTセミナー「モニタの使い方を知ろう」
2	5月14日	グループワークを活性化させるには?～あなたならどうする?～【導入編】
3	6月4日	グループワークを活性化させるには?～あなたならどうする?～【実践編】
4	6月11日	グラントオープンセミナー「言葉で<私>を表現する一思いを伝えることの難しさ」
5	6月18日	《大学2,3,4年生向け》みんなで楽しく自己分析をしよう!
6	7月16日	過去から未来へ「自分らしさ」を考える
7	11月19日	宇宙箱舟ワークショップ
8	1月14日	第2回ICTセミナー「『Prezi』に触ってみよう」
9	3月29日	オープンキャンパス学生企画「大学での学び体験」
10	8月1・2・22日	オープンキャンパス学生企画「高校生対象ラーニングコモンズ見学ツアー」

員はどのように携わっているのか。LCSの管理・育成には主にラーニングコモンズに常駐する学習支援を担当する職員三名と、教育支援研究開発センター所属の職員一名があたっている。先に述べたweb上での対話関係の



図2 イベントの様子

構築や日々の現場でのやり取りなどを通して、職員は経験則だけではない多角的な視点から、時には見守り、時には協働しながら彼らのイベント企画・実施をサポートしている。

### 新たな学びのロールモデルとして

LCSは発足して2年足らずの組織でありながら、すでにその活動は学内外で注目を集めている。LCS主催イベントに参加した学

生の中から、自主的にワークショップや勉強会・セミナーを企画・実施したいという相談が寄せられており、LCSの活動が学生の学内活動の活性化に影響を与えている。雄飛館ラーニングコモンズは「見る／見られる」環境づくりにより、相互の学びや気づきを生み出す学習空間として機能し始めている。

ラーニングコモンズの利用者にとってLCSの活動そのものが主体的な学習活動を実践するロールモデルであり、彼らの活動そのものが利用者の学習活動に適した環境を作り上げ、成長を支援しているのである。この役割は、他の学生スタッフとは異なる特徴であるといえる。

しかし、学内外で徐々に評価され始めたとはいえ、その活動は他にあまり類を見ないのであり、さまざまな議論と試行錯誤を通じ、少しずつ成長を重ねているのである。

次回は教学センター所属のピア・サポーターの取り組みを報告する。

【註】  
1 本学のPBL型科目「O/OCF-PBL2」にて特定非営利活動法人日本キャリア開発協会と共同開発された、「人生すごろく」金の糸<sup>1</sup>」  
(golden thread)」

【参考文献】  
石田悠・笹山晴菜ほか(2015)「ラーニングコモンズにおける学生スタッフ活動を通しての学生の成長」『高等教育研究フォーラム』第5号、pp.189-195.  
溝上智恵子編著(2015)『世界のラーニング・コモンズ 大学教育と「学び」の空間モデル』樹村房。